

2024年度前期・社福国試対策

社会福祉調査の基礎

85 社会調査の概要

【穴埋めチェック2023】
P.249～P.256参照



▶ 社会調査

社会調査	●人々の意識や行動などの実態をとらえるための調査。研究者が個人で行うフィールドワーク、統計的なデータとして結果をまとめられない調査も含まれる	
	センサス	● 公的機関 などにより行われる大規模な調査。国勢調査など
	社会踏査	●貧困や犯罪、スラムなど、 社会的な問題を解決 するために行われる調査である
調査の種類	量的調査	●複数のサンプルから、データを収集し数量的に把握する調査
	質的調査	●数量的な把握を目的としない調査（観察法、事例研究など）

▶ 統計法

目的	●公的統計の作成及び提供に関し基本となる事項を定めることにより、 国民経済の健全な発展及び国民生活の向上 に寄与する	
	●2007（平成19）年の統計法改正の目的は、公的統計の位置づけを「行政のための統計」から「 社会の情報基盤としての統計 」へと転換させることであった	
統計委員会	● 総務省 に、統計委員会を置く	
基幹統計	●国の行政機関が行う統計調査は、「基幹統計調査」と、それ以外の「一般統計調査」に分けられる	
	●基幹統計調査は、全国的な政策の企画立案を行ううえで重要な統計、民間における意思決定又は研究活動のために広く利用される統計などに該当するなかから 総務大臣 が指定するもの	
	国勢統計	●総務大臣は、10年（簡易調査は5年）ごとに、 人及び世帯に関する全数調査 （国勢調査）を行い、国勢統計を作成しなければならない
	国民経済計算	●内閣総理大臣は、毎年少なくとも1回、 国民経済計算 を作成しなければならない
調査票情報の二次利用	●行政機関の長又は指定独立行政法人等は、次に掲げる場合には、その行った統計調査に係る調査票情報を利用することができる	
	1	●統計の作成又は統計的研究を行う場合
	2	●統計調査その他の統計を作成するための調査に係る名簿を作成する場合
報告義務	● 基幹統計調査 により報告を求められた個人又は法人その他の団体は、 これを拒み、又は虚偽の報告をしてはならない	

▶ 質問文の作成

プリテスト	● 調査実施前に、調査票の不具合を点検するために行う 事前試験	
変数	独立変数	● 原因 となる変数
	従属変数	● 結果 となる変数
回答法	多肢選択法	● 2つ以上の選択肢の中から 1つ を質問の答えとして選ぶ
	複数選択法	● 複数の選択肢の中から、当てはまるものを 複数選ぶ
リッカート尺度	● アンケート等で使われる心理検査的解答尺度の一種 ● 質問に対する肯定的反応や否定的反応を測定する	例) 勉強は楽しいですか? 1 とてもたのしい 2 どちらともいえない 3 たのしくない
SD (Semantic Differential) 法	● 意味差判別法 ● 対立する形容詞の対を用いて、調査対象の感情的なイメージを測定する	例) この洋服はどうですか? 1 明るい 2 どちらでもない 3 暗い
濾過質問	● 質問文の中で専門用語を用いる場合、 まず、その用語の認識について確認する質問 を行ったうえで、その用語を知っている者のみに尋ねる	
質問文の注意	キャリーオーバー効果	● 前の質問 が、 後の質問 の回答へ影響を与えること ● 個人のプライバシーにかかわるような質問は 最後 に設ける
	ダブルバーレル	● 1つの質問に 2つの論点 が含まれていること
	ステレオタイプ	● 特定の価値 や ニュアンス が含まれている用語
	イエステンデンシー	● 回答者は、「 はい 」と答える傾向があることに気をつける

▶ 尺度水準

尺度水準	● 調査対象に割り振った変数、測定により得られたデータを、情報の性質に基づき統計学的に分類する基準 ● 名義尺度 < 順序尺度 < 間隔尺度 < 比例尺度 の順に情報量が多くなる														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">名義尺度</td> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">順序尺度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">間隔尺度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">比例尺度</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名義尺度			順序尺度			間隔尺度			比例尺度			● 名義尺度はデータを区分するための尺度であるため、 中央値 を求めることができないが、 最頻値は求めることができる	電話番号、血液型、背番号など	質的 データ
	名義尺度														
	順序尺度														
	間隔尺度														
比例尺度															
● 順序には意味があるがその間隔には意味がないので、 最頻値や中央値は求めることができる が、平均は求めることができない	階級、社会的態度、嗜好など														
● 目盛が等間隔になっているもので、 最頻値、中央値、平均は求めることができる が、比例は求めることができない	知能指数、摂氏の温度、カレンダーの日付など	量的 データ													
● 比例水準の原点 (0) は絶対的で、最頻値、中央値、平均、比例の すべてを 求めることができる	身長、体重、金額														

86 量的調査

▶ 全数調査と標本調査

全数（ <small>しっかい</small> ）調査	● 調査対象を すべて 調べる方法		
標本（一部）調査	● 調査対象の 一部 を調べ、母集団の特性を推測する方法		
	確率標本抽出法	無作為抽出法	● 無作為 に標本を抽出する ● 確率抽出（無作為抽出）の方が非確率抽出（有意抽出）よりも母集団に対する代表性は高い
		系統抽出法（等間隔抽出法）	● 一定の間隔 で標本を抽出する ● 抽出台帳に何らかの規則性がある場合、標本に偏りが生じる危険がある
		層化抽出法	● 母集団がいくつかの層に分けられる場合に、 層ごとに無作為抽出 を行う ● 事前に母集団のいくつかの属性の構成比率がわかっている場合は、代表性の高いサンプルを獲得できる
		二段抽出法（多段抽出法）	● 母集団を 第1次抽出単位を無作為に抽出 し、そのうえで抽出された 第1次抽出単位の中から第2次抽出単位を抽出 する方法 ● 無作為抽出に比べて、サンプルから母集団の特性値を推定する際の精度が下がる
	非確率抽出法	有意抽出法	● 標本を抽出する際に、ある目的のために 意図的に選ぶ方法 のこと 例）大きな駅の周辺で道行く人々の中から、何の意図も作為もなく偶然に出会った人々を集めて調査の対象者とする
		割当抽出法	● 標本抽出の際、国勢調査等の事前情報を利用して 母集団の構成比率に等しくなるように 標本を集める方法
		機縁法	● 調査員の対人ルートや関係者の 縁故関係 などから標本を選ぶ方法のこと
		スノーボール・サンプリング	● 調査回答者から知人を紹介してもらい、 雪だるま式 にサンプル数を増やしていく方法
調査に伴う誤差	標本誤差	● 標本調査による推計結果値が 真の値からどのくらい離れているかの幅 を示す数値	
	非標本誤差	● 回答者の 誤答や記入漏れ 、調査者の 入力や集計のミス などで生じる誤差	

▶ 自計式調査と他計式調査

自計式調査	● 調査対象者 が調査票に記入する方法 ● 留め置き調査、郵送調査、集合調査など
他計式調査	● 調査対象者から口頭で聞き取った内容を、 調査員が記入 する方法 ● 訪問面接調査、電話調査など
特徴	● 自計式の方が、プライバシーに関する質問 が回答しやすい ● 他計式の方が、調査対象者本人の回答である可能性が高い ● 他計式の方が、誤記入が起こりにくい ● 他計式の方が、社会的に望ましい内容に同調する回答の選択肢を選びがちになる

量的調査の種類

区分	調査種類	内容	長所	短所
自計式	留め置き調査	● 家に訪問し、質問紙を配り、一定期間後に回収する	● 費用と時間が省ける	● 本人が記入したかわからない
	集合調査	● 1か所に集め、質問紙を配り、その場で記入してもらい回収する	● 時間、費用も節約でき、回収率もよい	● 調査対象が限定され母集団を代表しているとは限らない
	郵送調査	● 質問紙を郵送し、返信してもらう	● 広範囲の調査に適し、費用や時間が少なくてよい	● 回収率が低い。工夫が必要
	インターネット調査	● 調査対象者がインターネットのフォームから直接回答する	● 短時間、低コストで大量のサンプル回収が可能	● 代表性の偏りが生じる
他計式	訪問面接調査	● 個別に訪問し、口頭で質問し、結果を調査者が質問紙に記入する	● 回収率がよい	● 時間、費用、人がかかる
	電話調査	● 電話で質問し、結果を調査者が質問紙に記入する	● 手軽にでき、費用や時間が少なくてよい	● 電話を切られたり、拒否されやすい

横断調査と縦断調査

横断調査 (クロスセクショナルデータ)	<ul style="list-style-type: none"> ● ある一時点で、複数の対象を横断的に比較調査する調査方法 ● 調査を行うのは1回のみで、さまざまな種類のデータを取る調査 ● 年齢階級別や男女別などに分類して、集団の特徴を分析することができる ● 横断調査では、因果関係を特定するに当たり制約が伴う ● 1回限りの横断調査でも2つの変数の間の相関関係を見出すことはできるが、因果関係を明らかにするにはパネル調査の方が適している 	
縦断調査 (時系列調査)	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の調査対象を一定の時間間隔をおいて繰り返し行う調査方法 ● 特定の調査対象を継続的に調査し、その変化をとらえることによりニーズ分析などを行うことができる 	
	トレンド(動向)調査	● 定期的に調査を行って調査対象集団における特性の変化の傾向を把握する調査 (国民生活基礎調査など)
	集団調査	● 同年齢・同世代等の集団の調査対象を繰り返し調査する
	パネル調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 同一の調査対象を繰り返し調査する追跡調査 ● 2つの変数の間の因果関係を明らかにするのに適している ● 「パネルの摩耗」とは、回を重ねるごとに回答者数が減っていくこと

87 質的調査

▶ 調査手法

フォーカス・グループ・インタビュー	●ある目的に対する情報を収集するために 集められた対象のグループ に、 面接形式 でインタビューを行う
ライフストーリーインタビュー	●個人が 生活史上で体験した出来事やその経験 についてのインタビュー。比較的自由的な会話に基づくインタビューで、聞き手との相互行為を重視する
ミックス法	● 質的データ を収集するインタビューや観察などと、 量的データ を収集する質問紙調査などを組み合わせて行う調査の手法

▶ 面接法

非構造化面接 (自由面接法)	●面接者が被面接者の反応や状況に応じて 質問の形式や順序を自由に变えて質問 する方法 ●1つ2つの質問をした後、対象者に自由に語ってもらう
構造化面接	●あらかじめ質問項目や順序を決めておいて、 どの対象者にも同じように尋ねる
半構造化面接	●質問項目を一定数つくり、残りは対象者に自由に語ってもらう

▶ 観察法

単純観察法 (人工的操作を加えない)	非参与観察法	●観察者が第三者として、あるがままの姿を 外部から 観察する ●マジックミラー（ワンウェイミラー）を使った観察を行うこともある
	参与観察法	●調査者自身が対象集団に入り込み、 内部から 観察する ●参与観察において、その集団生活に慣れ、調査対象に同化し過ぎることは望ましくない
統制的観察法 (人工的操作を加える)		●対象集団に、規制を加えたり、観察場面・手段に工夫を加えて観察を行う
エスノグラフィー (民族誌)		● 参与観察 により、ある集団の社会生活を、具体的かつ包括的に記述したもの
エスノメソドロジー		●日常の中で普通の人々が行う生活世界の意味づけを、 会話分析 などの事例によって研究する
アクションリサーチ		● 調査を行う研究者が当事者と協働して 、両者が関与する問題の解決も目指しつつ調査や実践を進める ●参与観察とアクションリサーチの違いは、前者が観察に基づく理論的研究を重視するのに対し、後者は 実践的な問題解決を重視 することにある ●アクションリサーチは一般的に次の段階を経る
	①計画段階	問題の観察と分析を行って目標を設定し、目標達成の方法を検討
	②実践段階	仮説に従って具体的に活動する
	③評価段階	目標達成度を測定して活動の有効性と仮説の妥当性を検証する
	④修正段階	改善すべき点の修正を行い実地研究で確認・検証する
⑤適用段階	社会事象にも適用してみても効用と限界を見極める	

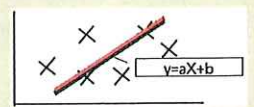
88 データ分析

質的調査のデータ整理と分析



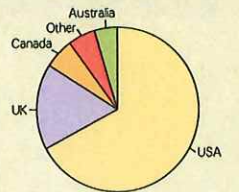


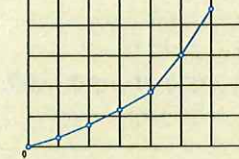
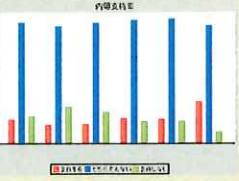

グラウンデッド・セオリー	● 観察や面接により資料収集を行い、記録し、 データ 化する。次に データ を単位化し、 コード をつける。得られた コード を比較して、 データ のもつ意味を解釈する。この作業を繰り返して、いくつかの コード を集約して カテゴリー をつくる	
	理論的飽和	● データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリーが出てこないと判断される状態
KJ法	● 質的データの分析 において、主として データをまとめる 際などに活用される ● データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、 図解し、文章化して整理 していく ● データの分類と集約を通じて、分析前には気がつかなかったことを 創造的につくり出す こともある	
コーディング	プリコーディング	● 調査票にあり得る回答にあらかじめ番号をつけておくこと
	軸足コーディング	● カテゴリー同士を関連づけ、複数のカテゴリーを束ねる
	インビボコーディング	● インタビューデータの分析において、対象者が使っている言葉を そのままコード として用いる

集計と分析

記述統計量	データを代表する値	標準平均	● データの 総和 を ケースの数 で割った値
		中央値	● すべてのデータを小さい順に並べたとき 中央に位置する値
		最頻値	● データの 出現率が一番多い値
		最大値と最小値	● 最大値はデータのうち 最も大きい値 、最小値はデータのうち 最も小さい値
		パーセンタイル (百分位数)	● データを小さい順に並べ、 小さいほうから数えて何%目の標本の値か を示す値 (50パーセンタイルが中央値となる)
		オッズ比	● ある事象が起こる確率比を起こらない確率比で割ったもの (0以上の数字で示される)
	1変数の関係	標本分散	● 標本が標本平均からどれだけばらけているかを示す指標 ● 標準分散の平方根は標本標準偏差
		歪度	● 分布が平均値を中心に左右対称になっているかを示す量
	2変数の関係	回帰係数	● 2変数からなる3つ以上の点から直線までの距離が最も小さくなるように引いた直線を 回帰直線 といい、この 直線の傾き を 回帰係数 という
		相関係数 (ピアソンの積率相関係数)	● 2つの確率変数の間の相関 を示す統計学的指標。-1から1の間の実数値をとる ● 1 (-1) に近いときは2つの確率変数には 正 (負) の相関 があり、0に近いときはもとの確率変数の 相関は弱い ● それぞれの変数の測定単位 (mとcm、円とドルなど) を変えても相関係数の絶対値は変化しない ● 変数Xと変数Yに正の相関が、変数Yと変数Zにも正の相関がある場合でも、変数Xと変数Zに相関が存在しないことがありうる



量的調査のデータ解析	単純集計	●「1つ」の変数を集計・分析し、変数の分布を明らかにする																
	クロス集計	●「2つ以上」の変数に着目し、集計・分析を行い、変数間の関連性を推察する																
	記述統計	●収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算して分布を明らかにし、データの示す傾向や性質を把握する手法																
	推計統計	●集団の一部のデータから集団全体の特徴や傾向を明らかにする手法																
	度数分布表	<ul style="list-style-type: none"> ●変数をいくつかに分けてそれぞれに属する資料の個数を記入した表 ●相対度数とは、各カテゴリーの値を度数を合計した値で割って算出 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th></th> <th>度数</th> <th>相対度数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>7</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>3</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		度数	相対度数	A	7	70%	B	3	30%	合計	10	100%				
	度数	相対度数																
A	7	70%																
B	3	30%																
合計	10	100%																
	クロス集計表	<ul style="list-style-type: none"> ●2変数の度数分布表 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格</th> <th>不合格</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>		合格	不合格	合計	男性	3	5	8	女性	7	4	11	合計	10	9	19
	合格	不合格	合計															
男性	3	5	8															
女性	7	4	11															
合計	10	9	19															
カイ2乗統計量	<ul style="list-style-type: none"> ●2つの変数が独立であるとした場合の期待度数からなる表と、実際の観測度数からなる表の間の全体的なズレを表す（観測度数と期待度数のズレを数値にする） $\chi^2 = \sum \frac{(\text{観測値} - \text{期待値})^2}{\text{期待値}}$																	
クロンバックのα係数	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の測定項目間に内的整合性があるかどうかを調べるために用いられる ●クロンバックのα係数は、通常、0.8以上でなければ妥当な尺度とはみなせない 																	
t検定	●通常2つのグループの 平均値の差 を統計学的に検証する手法																	
一元配置分散分析	●平均値の差の検定で、 3つ以上 の標本の平均を比較するために使われる手法																	
擬似相関	<ul style="list-style-type: none"> ●2つの事象に因果関係がないのに、見えない要因によって因果関係があるかのように推測されること ●検証するには、2つの変数に影響が想定される3つ目の変数を導入して、偏相関係数を計算してみるのがよいとされる 																	
トライアングレーション	●複数の異なる研究手法や理論などを併用し、1つの方法によって得られた知見を別の方法によって確かめることで、 分析結果の妥当性を高めていく手法																	

データの視覚化	1変数の分布	ヒストグラム	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表を棒で表した図。縦軸には度数、横軸にはカテゴリーや階級をとる 	
		箱ひげ図	<ul style="list-style-type: none"> 最小値、第1四分位数、中央値、第3四分位数と最大値を表した図で、データの分布やばらつきを表現する 四分位範囲(第3四分位数と第1四分位数の差)は、分布の両端からそれぞれ4分の1の測定値を捨てた後の、中央の半数の測定値の範囲 	
		パイチャート (円グラフ)	<ul style="list-style-type: none"> 円全体を100%として、データの内訳や構成比率などを表すグラフ 	
	2変数の分布	散布図	<ul style="list-style-type: none"> 縦軸、横軸に2項目のデータを点で表した図 	
		バブルチャート	<ul style="list-style-type: none"> 散布図の1つで、2軸の座標軸の上に、大きさが3軸目の指標を示す円状の図を配置した図 	
		折れ線グラフ	<ul style="list-style-type: none"> 散布図の1つで、プロットされた点を直線でつないだものをいう 時間の経過に従って変化する数値の変化を表すことなどに用いられる 	
		棒グラフ	<ul style="list-style-type: none"> 棒の長さで数量を表すグラフで量の大小の比較に利用される 	
	レーダーチャート	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のサービス満足度を10段階で評価する5つの指標を用いて測定した結果等を図示するのに適している 		

社会福祉士・国家試験対策用語集

社会福祉調査の基礎

国家試験対策用語集

●解説文中の太字は国家試験で出題された箇所です。

アクション・リサーチ

[action research]

レヴィン (Lewin, K.) によって提唱された研究法。現実の社会現象や問題を観察し、その解決策を企画し、それを実行、記述・評価するという過程を相互補足的、相互循環的に行うことで実践的研究を進める。

アクティブ・インタビュー

[active interview]

インタビュアーが回答者に与える影響を小さくするのではなく、むしろ積極的に語りに関与し、インタビューの場面における相互行為によって意味を積極的に作成しようとするインタビュー手法。

ROD

[Random Digit Dialing]

電話調査においてサンプリングを行うときに、電話帳を抽出台帳にするのではなく、コンピュータがランダムに生成した電話番号を用いる方法。マスコミの世論調査に多用されている。電話帳に掲載されていない固定電話も抽出できる。反面、携帯電話やIP電話は除外されるため、それらだけを使って生活している世帯は抽出されない。

イエス・テレンシー

[yes-tendency]

黙従傾向と訳される。質問紙調査において、回答者がどのような質問に対しても「はい」や「賛成」といった肯定的な回答をしてしまう傾向。この傾向を回避するために、賛否両論を併記した質問文を作成するのが望ましい。

因子分析

[factor analysis]

間隔・比例尺度データの構造分析の1つで、複数の観測されたデータ(多変数)の背後にある共通の因子を探し出す方法。個人の特徴を表す因子得点を算出し、個人を分類し、他変数との関連をみることもできる。

インビボ・コーディング

[in-vivo coding]

質的調査においてオープンコーディングをする際、調査対象が使った言葉をそのまま用いてコードをつけることをいう。

インフォームド・コンセント

[informed consent]

「説明に基づく同意」「知らされた上での同意」などと訳される。サービス提供の最終決定権は利用者にあるという考えに基づく。利用者の知る権利と、援助者の説明義務の遂行を前提とした、利用者と援助者間の十分な説明と同意のことをいう。医師が患者や家族に診断や治療を説明する際に、看護師やMSWなども同席する。患者の入院には、入院診療計画書の作成や患者・家族への説明が医療法に示されている。

SD法

[semantic differential method]

ある対象の印象やイメージを測定するために用いられる方法。「明るい-暗い」「派手な-地味な」といった意味的に相対する形容詞のセットを複数用意し、どちらの印象に近いか回答を求める。

エスノグラフィー

[ethnography]

「民族誌」と訳される。フィールドワークに基づき、その社会の歴史、経済、政治、文化などの現象を質的に記述し、まとめたもの。未開社会だけでなく、村落共同体やある集団、個人の生活史についての調査にも用いられる。後者の場合、モノグラフともいう。

エスノメソドロジー

[ethnomethodology]

ガーフィンケル (Garfinkel, H.) によって発案された研究法とその理論的立場。われわれは、さまざまな行為を一定の秩序に従って行うが、エスノメソドロジーでは、この秩序は行為とそれが行われる社会的文脈との相互作用によって組織化されると考える。そして、会話分析などを通じて、この組織化の過程を検討することで、社会的現実を明らかにしていく。代表的な質的調査の1つ。

横断調査

[cross sectional survey]

一時点限りの調査を用いて、ある瞬間の社会状態を調べる方法。横断調査で年齢差が観測されても、加齢による差なのか、同じ時期に生まれた特定の世代だけにみられる特徴からくる差なのかは区別がつかない。

オッズ比

[odds ratio]

ある事象が起こる確率 p と起こらない確率の比 $\frac{p}{1-p}$ をオッズという。オッズ比とは、2つのグループにおけるオッズの比であり、ある事象の起こりやすさを比べるときに用いられる。オッズ比は1を中心として0～ ∞ の値をとる非対称な指標であり、0または ∞ に近くなるほどグループと事象の関連が強いことを示す。

オーバーラポール

[over rapport]

社会調査における面接法や参与観察では、調査者と調査対象との信頼関係 (ラポール) が成立していな

ければ良質なデータは得られない。しかし、その信頼関係が過度になり、調査者が調査対象に同一化するると、調査の客観性は失われてしまう。この過度な信頼関係をいう。

χ^2 検定

[χ^2 -test]

期待度数と観測度数のずれを集計した χ^2 統計量を用いる検定。適合度の検定は、1変数の度数分布に偏りがあるか検定する。独立性の検定は、クロス集計表において、2変数に連関がないか (2変数が互いに独立であるか) 検定する。

会話分析

[conversation analysis]

現実の会話を、発話内容だけでなく、沈黙や発話の重なりなどについても特殊な記号を併用しながら精緻に記録し (その記録を会話転記記録 [トランスクリプト] という)、当該会話の中での共有されるルール、暗黙の認識や意味を分析する質的調査の1つ。

確率抽出法

[probability sampling]

標本抽出において、母集団のすべてに一定の抽出確率を与えて標本を選ぶ方法をいう。確率論に基づくため、母集団と標本との関係を客観的に推測することができる。この方法では、調査者の作為が入らずに標本が抽出されることから、無作為抽出法とも呼ばれる。

観察法

[observational method]

観察することで、研究対象者に関する行動、人格特性、環境などの情報を得て洞察し、それらの関連性を考察したり、そこから仮説を導いたりする研究方法。

基幹統計

[fundamental statistics]

行政機関が調査した公的統計のうち、政策の企画立案や意思決定、研究等において特に重要であると総務大臣が指定した統計。国勢統計、人口動態調査等がこれにあたる。一方、公的統計ではあるが、この

ような指定を受けていないものを一般統計という。

疑似相関

[spurious correlation]

他の変数（第3変数）の影響により、直接的な因果関係が存在しないにもかかわらず見かけ上高まった相関。仮に、ある小学校の全校生徒対象の調査において身長と知能テストの結果に相関がみられたとしよう。しかしそれは身長と知能の因果関係ではなく、年齢あるいは学年の影響による疑似相関である。疑似相関を検証するには、第3変数を導入して偏相関係数を計算することが多い。

記述統計

[descriptive statistics]

調査によって収集されたデータに基づき、調査対象集団そのものの特性を記述する統計的方法。データの記述には、度数分布表、グラフ、基本統計量などが用いられる。

基本統計量

[basic statistics]

データの分布に関する特性を1つの値で表現したもの。主な基本統計量には、データの中心傾向を表す代表値（平均、中央値、最頻値など）と散らばりの程度をあらわす散布度（範囲、分散、標準偏差など）がある。

キャリーオーバー効果

[carry over effect]

社会福祉調査において注意すべき事項であり「持ち越し効果」とも呼ばれる。調査票の質問項目の配列について、前の質問に回答したことが、後に続く質問の回答に偏った影響を及ぼすことをいう。

グラウンテッド・セオリー・アプローチ

[grounded theory approach]

グレイザー（Glaser, B.）とストラウス（Strauss, A.）によって示された質的データから理論構築を行うための研究方法をいう。まず、観察や面接により資料収集を行い、記録し、データ化する。データは以下の手順で分析される。①オープンコーディング：データを適当なまとまりに切片化し、コードを

つけ、似たもの同士をまとめてカテゴリーをつくる。②軸足コーディング：単一のカテゴリーと複数のサブカテゴリーを関連づけ、現象を表現できるようなものにまとめる。③選択的コーディング：中心的なカテゴリーを選択・統合して理論を構築する。

グループインタビュー

[group interview]

グループ・ダイナミックスを利用し、グループメンバーからの情報を収集する方法。ブレインストーミングの方法をとることもできるし、構造的、半構造的に行うこともできる。熟練された進行役（ファシリテーター）によって実施し、調査者は、質的な言語データとして記録・分析する。

クロス集計

[cross-tabulation]

2変数を組み合わせて観測度数を集計すること。クロス集計表は、表側に分類する変数を置き、表頭に分類される変数を置くことが多い。各行列内の比率である相対度数や行パーセント・列パーセントを計算すると、2変数の関連がわかりやすくなる。また、それを検定する場合は χ^2 検定（独立性の検定）がよく用いられる。

系統抽出法

[systematic sampling]

等間隔抽出法ともいい、母集団すべての調査単位を網羅した名簿やサンプリング台帳に、通し番号を付け、一定の規則に従って標本を抽出する方法。たとえば、10,000人から200人を抽出するのであれば、 $10,000 \div 200$ で50人おきに抽出する。最初の1人は、乱数表により抽出するか、1～50のくじを引いて決める。

KJ法

川喜田二郎によって開発され、彼の頭文字をとって命名された情報整理の方法をいう。まず、収集したデータをカード等に記入し、内容が本質的に似ているものをグルーピングし見出しをつける。次に、それぞれのグループがどのような論理的関連を持っているのかを考え、文章化していく。そうすることで、個々バラバラであった意見や要望が整理され

る。社会福祉計画の過程において、特に「構想計画」の段階で用いられる。

検定

[test]

調査者が母集団について立てた仮説が正しいかどうかを標本データから推測する手法のこと。統計的検定、統計的仮説検定ともいう。検定には種類があるが、どの方法も、母集団を定義し、帰無仮説が棄却されるかどうかを調べる。帰無仮説が棄却されれば対立仮説が支持されたことになる。

構造化面接

[structured interview]

事前に計画された質問項目に沿って調査対象者が発言する面接法。質問以外の要因が、回答に影響を与えることは少ないが、研究者が想定した質問項目に対する回答しか得られず、深層部分を知ることはできない。

コーディング

[coding]

質問紙法のような量的調査において、回答内容をいくつかのカテゴリーに分け、各カテゴリーに数値やアルファベットなどの符号（コード）を与えること。選択肢法のようにあらかじめコードを与えることをプリコーディング、自由回答などに事後的にコードを与えることをアフターコーディングという。面接法のような質的調査では、回答内容を部分的に分けて検討し、概念化するプロセスをいう。さらに抽象化し、上位の概念にまとめ上げるプロセスをカテゴリー化という。

古典的実験計画法

[classical experimental design]

「プリテスト-ポストテスト統制群法」とも呼ばれる。福祉サービスを評価するために、利用者を実験群と統制群に無作為割当によって分けて追跡調査を行い、2つの群を比較研究する調査方法をいう。

個別面接調査法

訪問面接調査法あるいは単に面接調査法とも呼ばれる。統計調査で用いられる他計式調査の1つ。調査

員が回答者を直接訪問し、調査票にしたがって口頭で質問する。一般に、回収率が高いが費用がかかる。回答者の負担が少ない調査方法だが、調査員の存在が回答に影響することもあり、プライベートな質問は回答が得られにくい。

コンフィデンシャルティ

[confidentiality]

「秘密保持」あるいは「守秘性」と訳される。職務上で相手から知り得た情報を、同意なく第三者に開示および漏洩したり、二次使用してはならないことをいう。バイステック (Biestek, F.)によるケースワークの7つの原則の1つである。

最頻値

[mode]

代表値の1つ。データの中で最も度数が多い値。質的データ（名義尺度変数や順序尺度変数）によく用いられる。1つの分布に複数存在したり、1つも存在しない場合がある。

参与観察法

[participant observation]

事例調査における観察法の1つ。生活や経験などを調査対象者とともに行動の意味を理解しようとする方法をいう。それに対して、調査対象者の行動に、研究者がまったく影響を与えないようにして、対象者が表現するありのままを客観的に観察する方法を、非参与観察法という。

自記式調査

「日記式調査」とも呼ばれる。統計調査に用いられる方法の1つであり、調査対象者が自ら回答を調査票に記入する手法をいう。

自然観察法

[natural observation]

観察を実施する状況にまったく制限を加えず、日常生活そのままの行動を観察する研究法のこと。その中で、観察の場面を設定せず、生じる行動をありのまま観察するのを偶然的観察法といい、研究目的によって、観察するターゲットの行動をあらかじめ決めておくのを組織的観察法という。

実験観察法

[experimental observation]

研究目的によって、ターゲットとなる行動を生じやすくするために、研究者が、ある程度、環境を統制して観察する研究法。観察場面では、研究者は観察対象者に影響を与えないようにする。

質的調査

[qualitative research]

事例調査と同義であるが、質的調査という場合、狭義の調査だけではなく、実験や観察、面接、あるいはエスノメソドロジーや内容分析、会話分析、参与観察、各種のフィールドワークなど、多様な手法を用いた調査方法を指す概念である。

質的データ

[qualitative data]

質的調査によって得られたデータまたは順序尺度と名義尺度で測定されたデータ。前者の場合、データは文章や映像などである。後者の場合、変数に与えられた数値であるが、数値それ自体には量的な意味はないので、足したり、引いたり、平均を求めるようなことはできない。

社会福祉調査法

[social work research]

間接援助技術の1つ。社会福祉対象者の抱える問題に関するデータを収集し、分析・整理を通して、その実証的な解明を図るソーシャルワーク実践を指し、提供されているサービスに対する要求や潜在的ニーズを見出し、課題の予防や解決を目指すものである。また、社会福祉理論の一般化を図る上での科学的な根拠や資料としての役割も果たす。

尺度水準

[scale level]

観測対象を測る際の基準のことを尺度という。尺度には、含まれる情報量が少ない順に以下の4つの水準がある。①名義尺度：IDや背番号など対象の識別のみを意味する尺度、②順序尺度：ランキングやゴール順位など①に加えて順序を区別する尺度、③間隔尺度：温度や西暦など②に加えて間隔の長さ

意味がある尺度、④比例尺度（比率尺度）：重さや時間など③に加えて0に本質的な意味がある尺度。

重回帰分析

[multiple regression analysis]

多変量解析の1つ。以下の予測式を立てることで複数の独立変数 X_1, X_2, \dots, X_N から1つの従属変数 Y を予測・説明する手法。

$$Y = a + b_1 X_1 + b_2 X_2 + \dots + b_N X_N$$

ここでパラメータ b_1, b_2, \dots, b_N は、偏回帰係数と呼ばれ、各独立変数が従属変数に与える影響の大きさと解釈される。パラメータは、予測値と観測値の誤差を最小にする最小二乗法によって求められる。重回帰分析は従属変数 Y が量的変数のときに用いられるが、2値（質的変数）のときはロジスティック回帰分析や判別分析が用いられる。

自由回答法

[free-answer question]

質問紙調査において、あらかじめ回答選択肢を設けず、単語や文章などを自由に記入してもらう方法。回答者の自由な意見を収集することができる反面、回答に手間がかかるため、無回答が増える傾向がある。

集合調査法

統計調査で用いられる自計式調査の1つ。調査対象者を特定の場所に集合させ、調査員の指示に従って調査票に回答を記入させる方法をいう。短時間で実施が可能であるが、一方で調査対象が限定されることが考えられる。

従属変数

[dependent variable]

被説明変数や目的変数とも呼ばれる。社会福祉調査においては、原因と結果との関連を分析せねばならない。その際に用いられる、結果に当たる事象を測定する調査項目のことをいう。

縦断調査

[longitudinal survey]

社会の変化を捉えるために、時間をおいて繰り返し同一の調査を行う方法。調査のたびに対象を決定す

る継続調査や同一対象を追跡するパネル調査がある。前者は社会全体としての変化を、後者は個々の対象者の変化を知ることができる。後者は因果関係の解明に適している一方で、調査を繰り返すたびに対象者が欠けていく「パネルの摩耗（脱落）」という問題が生じやすい。

自由面接法

[free-answer question]

事例調査に用いられる方法の1つ。あらかじめ質問項目の大枠を決め、面接者が対象者との会話の中で質問をしながら調査を展開する方法をいう。

事例研究

[case study]

実際に課題を抱えている対象について、さまざまな視点から丁寧に検討し、問題の状況、背景、原因、環境を明らかにしていき、解決法を見つけ出していく研究法。大量のデータを収集することは難しいが、事例の積み重ねから、一般化できる理論を導き出すことは可能である。ケーススタディともいう。

事例調査

「質的調査」とも呼ばれる。社会調査の1つであり、限定された比較的少数の事例について、詳細な観察や聞き取りを行い、調査課題の質的構造を明らかにしようとする調査方法をいう。

シングル・システム・デザイン

[single system design]

実践評価の手法の1つであり「単一事例実験計画法」とも呼ばれる。この手法によってソーシャルワーク実践の効果測定を行う際には、統計的検定などを用いた分析以外に、データをグラフ化し、介入前後での従属変数の水準を視覚的に判断する方法が用いられる。この分析では、介入前後でのデータの水準変化だけに注目するのではなく、傾向や変動性に注意することも重要である。

深層面接

[depth interview]

臨床心理学で使われる心理療法から生まれた方法であり、意識的なレベルよりも、行動の背景にある無意

識の欲求や動機などの、さらに深い部分を調査する面接である。深い部分の情報を得ることで、心の傷や、触れられたくない部分に面接者がかかわってしまうため、特に倫理的責任に留意すべきである。

信頼性

[reliability]

調査結果の精度に関する概念。量的調査では、調査結果の再現可能性を意味し、安定性（一定の期間において、同一の調査を2回実施したとき、その2回の調査結果が同じになる。）と一貫性（あるいは等質性。同一の調査対象者に、ある調査とそれに類似した調査を実施したとき、その2つの調査結果が同じになる）に区分される。前者は再検査法、平行検査法によって、後者は折半法やクロンバックの α 係数によって検討される。質的調査では、調査の分析結果と収集されたデータとの一貫性を意味し、外的信頼性（2人の異なる調査者が同じような状況の中で同じ調査をした場合、結果が同じになる）と内的信頼性（1つの研究の中で、複数の調査者の考えが一致する）に区分される

推測統計

[inferential statistics]

標本から得られた統計量をもとに母集団の特性（母数）について推測する統計的方法。記述統計と異なり、部分から全体を推測するところに特徴がある。推測統計の主な手法には、検定や推定がある。

推定

[statistical estimation]

推測統計の1つ。標本の統計量をもとに母数が具体的にいくらであるか予想すること。推定には、母数をただ1つの値で予想する点推定と、一定の幅を持たせて範囲を予想する区間推定がある。

全数調査

[complete enumeration]

「悉皆調査」とも呼ばれる。統計調査の1つであり、調査対象全体を悉く調べる方法をいう。国勢調査などがこれに該当する。

選択肢法

質問紙調査において、質問文に対する回答選択肢をあらかじめ用意しておく方法。集計処理が簡単な反面、回答者の自由な意見や発想が制限される場合がある。「はい／いいえ」など2つの選択肢を用意する方法を二項選択法、3つ以上を多項選択法という。また、選択肢のうち1つだけ回答を選ぶものを単数回答 (SA: シングル・アンサー)、いくつでも選べるものを複数回答 (MA: マルチプル・アンサー) という。

相関関係

2つの変数があるとき、一方が変化すると他方もそれに応じて変化する関係。ただし、相関関係は因果関係の必要条件であるが十分条件ではない。それゆえ、相関関係を明らかにしたとはいえ、因果関係が明らかになるわけではない。

相関係数

[correlation coefficient]

2つの変数の間の相関関係の程度を示す統計学的指標。-1から1の値をとり、1に近いときは2つの変数には正の相関があるといい、-1に近ければ負の相関があるという。0に近いとき相関は弱い。パラメトリックな方法として、ピアソンの積率相関係数がある。また、ノンパラメトリックな方法として、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数などがある。

操作的定義

[operational definition]

社会調査において、問題関心のある抽象的な概念を、調査によって測定可能な具体的な形に表現し直すこと。調査設計時において作業仮説の構築に必要となる。

相談的面接

生活問題などの課題を抱えたクライアントに対し、面接者が課題を解決するために援助を行う面接のことをいう。面接を通して、具体的なサービスの提供などの援助が行われる。心理学においては、臨床的面接ともいわれ、心理診断や、心理療法が行われ

る。

他記式調査

「他記式調査」とも呼ばれる。統計調査に用いられる方法の1つであり、調査員が対象者に聞き取りを行い、その回答を調査票に記入する方法をいう。

多段抽出法

[multi-stage sampling]

母集団から何段階かに分けて標本を抽出する方法。たとえばA市から有権者100名を抽出する場合、まず10投票区を抽出し、そこから各10人ずつを抽出することなどが考えられる。抽出コストが抑えられる現実的な方法である反面、単純無作為抽出法よりも標本誤差が大きく(推定の精度が低く)なる。

妥当性

[validity]

調査結果が調査対象を正確に捉えている程度に関する概念。量的調査では、内容妥当性(調査の質問内容が調査対象のよい見本か)、基準関連妥当性(調査対象と関連ある他の基準との相関が高いか)と構成概念妥当性(対象となる概念を調査がよく捉えているか)などに区分される。質的調査では、内的妥当性(調査結果が対象となる現実世界に即しているか)と外的妥当性(調査結果の中に具体的普遍性を見出すことが可能か)に区分される。

ダブルバレル

[double barreled]

社会福祉調査に用いられる調査票において、1つの質問の中に複数の論点や事柄を含むことをいう。そのような質問の仕方は、調査対象者の混乱を招くため避けなければならない。

多変量解析

[multivariate analysis]

複数の変数について多数の個人を測定したデータを多変量データという。この多変量データを扱う統計的手法の総称。内部構造の解析を目的とする因子分析や主成分分析、分類を目的とするクラスター分析などがある。また、重回帰分析や判別分析を含むこともある。

逐語記録

[verbatim record]

インタビューなどの調査における、会話のやりとりについて録画や録音した記録を、一言一句漏らさず、そのまま言葉通りに文字にして表した記録のこと。感情や動機などの内面を分析するために、会話のスピード、声の大きさや質、沈黙の長さ、表情などの非言語的表現を記録する場合もある。

中央値

[median]

代表値の1つ。データを大小順に並べたときに、ちょうど真ん中に位置する値。データが偶数個の場合は真ん中に位置する2つの値の平均値。平均値に比べ、はずれ値や分布の歪みから影響を受けにくい。

抽出台帳

[sampling book]

標本調査において、標本を抽出する際に用いられる母集団を構成する全員のリスト。無作為抽出を行うためには、抽出台帳が必要である。個人を対象とした調査の場合、住民基本台帳や選挙人名簿がよく用いられる。

調査単位

統計調査において、調査票を配布し、情報収集を行う対象の最も小さなまとまりのこと。調査票を実際に配ることのできる対象をいう。

調査的面接

[research interview]

調査テーマについて、面接者が調査対象者から会話を通して、データとなる科学的情報を収集する方法である。調査対象者の持つ感情、意見、考え方、出来事などを、質的データ、量的データの形で収集し、データの種類に応じた方法で分析する。

データ・クリーニング

[data cleaning]

ファイル化されたデータに潜在的に残る誤りを、分析の前に、いったん予備的に集計することによって修正する手続き。あるべきではない数値が表れてい

ないかどうかをチェックする単集チェック、複数の質問項目の間で論理的にはあり得ない回答パターンを探索するクロスチェックを通じて行われる。

デルファイ法

[delphi method]

「アンケート収斂法」とも呼ばれる。社会調査でいう一種のパネル調査で、さまざまな意見をもつ専門家に対して、ある程度の期間をおいて数回のアンケート調査を行い、一定の合意を得ようとする方法をいう。この技法は、社会福祉計画にかかわる数ある素案に優先順位をつけ、限定されたものへと絞っていく際に有効である。

電話調査法

統計調査における他計式調査の1つ。調査対象者に対して電話によって回答を求める方法をいう。コンピュータがランダムに生成した電話番号を対象とするRDD (random digit dialing) 法によるサンプリングが行われることが多く、マスコミの世論調査に多用されている。また近年では、コンピュータが調査者を補助するCATI (computer assisted telephone interviewing) という手法も普及している。

統計調査

「量的調査」とも呼ばれる。社会調査の1つであり、比較的多数の対象者からの数値データを観測して、その状態や特性などを分析し、量的に把握する方法をいう。

統制的観察法

[controlled observation method]

自然観察法とは違い、研究目的に従って観察すべき状況を観察者の側で設定し、なんらかの統制や修飾を加えて行う観察の総称。シングル・システム・デザインのような実験的観察法、一部の組織的観察法がこれにあたる。

ドキュメント分析

[document analysis]

何らかの形に記録されたデータ (ドキュメント) を分析する調査方法。議事録や新聞記事のような公的

な文書から日記や手紙のような私的な文書、歴史的な文書から最近書かれたもの、文字から音声・画像・映像まで、その分析対象は幅広い。議事録であれば決定プロセス、日記であれば作者の主観的な意味づけ、歴史的な文書であれば当時の時代背景を明らかにするためなど、分析対象によって目的と方法が大きく異なる。

独立変数

[Independent variable]

「説明変数」とも呼ばれる。社会福祉調査においては、原因と結果との関連を分析せねばならない。その際に用いられる、原因に当たる事象を測定する調査項目のことをいう。

度数

[frequency]

変数がとる各値の出現頻度。質問紙調査でいえば、各選択肢を選んだ回答者の人数のことである。各設問の度数を数え上げて集計することを単純集計、その結果を表にして設問の回答の分布をわかるようにしたものを度数分布表という。

留置調査法

配票調査法とも呼ばれる。統計調査で用いられる自計式調査の1つ。調査員を通して調査対象者に調査票が配布・回収される方法をいう。費用や時間が省け、回収率もよいが、誤記入や記入漏れが生じやすく、対象者本人の回答であることを確認するのが難しい。

ナラティブ分析

[narrative analysis]

面接者の質問に答える対話の形で、調査対象者が自分史を語り、その物語を分析していく研究法。人生に影響を与えたことや、節目となったことなどについて聞き、時系列や因果関係などの下位カテゴリーを作り、調査対象者自身の人生への意味付けについて分析する。

パーソナルな質問

回答者自身の行動や意見について聞く質問。個人的質問ともいう。一方、世間一般の人びとの行動や意

見を聞く質問をインパーソナルな質問（一般的質問）という。たとえば、「あなたは骨髄移植のドナー登録をしますか」が前者に、「我が国で、骨髄移植のドナー登録を推進すべきだと思いますか」という質問が後者に相当する。

半構造化面接

[semi-structured inter-view]

質問項目はあらかじめ計画しておき、調査対象者が自らのことを自由に話しているように感じる中で、様子をみながら、話の内容に沿って質問を織り込んでいく面接法。質問の方法は調査対象者によって変わり、回答の仕方は調査対象者に任されるので、回答の長さや深さがそれぞれ異なる。

非構造化面接

[unstructured interview]

質問項目を詳細に用意せずに、調査対象者に自由に話してもらう面接法。研究者が想定しなかったトピックや深い情報を聞き出すことができる反面、インタビュアーの力量や調査対象者との関係性によって得られるデータが大きく左右される。

標準化

[standardization]

正規分布している（と仮定できる）変数について、その尺度を以下の式（ただし、分布の得点 X_i の平均値が \bar{X} 、標準偏差が s ）の変換操作によって、平均値が0、標準偏差が1の標準正規分布すること。

$$z_i = \frac{X_i - \bar{X}}{s}$$

この際の各測定値の得点（標準得点）を z 得点という。

標準偏差

[standard deviation]

データの散らばりを表す基本統計量の1つ。 N 個の値 X_1, X_2, \dots, X_N の平均を \bar{X} とするとき、標準偏差 s は以下のように定義される。

$$s = \sqrt{\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N (X_i - \bar{X})^2}$$

つまり、分散の平方根である。データが正規分布に従う場合、平均 ± 1 標準偏差の範囲に全体の68.3

％、平均±2標準偏差の範囲に全体の95.5％が含まれる。

標本

[sample]

サンプルとも呼ばれる。標本調査において、母数を推測するために実際に調査が実施される、母集団の一部分。標本は、母集団の縮図となるように抽出される。

標本誤差

[sampling error]

標本抽出に伴って生じる、標本の統計量と母数の間の誤差。標本が無作為抽出されている場合、標本誤差がどの程度か確率的に見積もることができる。また、標本が大きいほど標本誤差は小さくなる。

標本抽出

[sampling]

サンプリングとも呼ばれる。統計調査において、母集団から標本（サンプル）を選び出すことをいう。標本抽出の方法としては、標本をランダムに選択する「無作為抽出法（確率抽出法）」と母集団を代表すると思われる標本を作為的に選ぶ「有意抽出法（非確率抽出法）」とがある。

標本調査

統計調査の1つであり、母集団の中から調査対象（調査標本）を選び出して調査を行い、全体の統計を推定する方法をいう。

フィールドノート

[field notes]

フィールドワークにおいて、調査者が調査地で行った観察やインタビューなどを記録したもの。フィールドノートは、エスノグラフィー研究の基礎データである。

フェイス・シート

[face sheet]

ソーシャルワークの記録において、利用者の属性（氏名・年齢・性別・職業等）がまとめられたシートをいう。また、社会福祉調査において、調査対象

者の属性に関する質問を指すこともあり、属性別のクロス集計の際に用いられる。回答への抵抗感を軽減するために調査票の最後に載せることが一般的である。

フォーカスグループ

[focused group]

共通の意識、経験、特徴を持つ人たちに対するグループインタビューのこと。進行役は形式ばらない議論により、関心領域の特定のテーマや問題についての認識、思考、感情を引き出す。フォーカスグループインタビュー、焦点集団面接、集団深層面接ともいう。

ブース

[Booth, Charles James 1840-1916]

イギリスの研究者、実業家。17年にわたって実施したロンドン調査はその報告書『ロンドン民衆の生活と労働』（全17巻）にまとめられ、人口の3割が貧困線以下にあり、その原因が低賃金等の雇用上の問題に起因することを明らかにした。

ブレインストーミング

[brain storming]

アイデア創出のための基本的な技法。集まった人びとが自由に意見を出し合い、連想の働きを促すことによって、より創造性を高めていくことを目的とする。そのルールとして、①批判厳禁、②自由奔放、③質より量、④結合改善、が挙げられる。

分散分析

[analysis of variance]

偏差（得点－平均）の2乗を平均したものを分散という。測定値の分散のうち、群内の分散と群間の平均値の分散を比較することによって、群間の平均値に差があるのかどうかを検討するパラメトリックな統計的手法をいう。群を分ける要因が1つの場合は一元配置、2つの場合は二元配置という。2つの平均値の違いを検討する場合にはt検定を用いるが、3つ以上の平均値の相違を検討する場合に用いる。

平均

[mean]

代表値の1つ。算術平均（相加平均）、幾何平均（相乗平均）、調和平均などがあるが、一般に「平均値」といった場合は以下に定義される算術平均 \bar{X} を意味する。

$$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X_i$$

ここで、 X_i は*i*番目のデータ、 N はデータの個数である。つまり、データの合計をその個数で割ったものである。算術平均は最もよく用いられる代表値だが、はずれ値の影響を受けやすく、分布が正規分布から著しく歪んでいる場合は代表値として不適切な値をとる。

母集団

[population]

統計調査における調査単位の集合全体のことをいう。つまり、調査テーマに関係する対象者全体を指すものである。母集団のすべてを調査することを全数調査（悉皆調査）という。

母数

[parameter]

母集団における平均、分散、標準偏差、相関係数などの数理的特性。これに対して標本に基づいて計算された量を統計量という。全数調査でない限り、母数は統計量から推定することになる。一般に母数は、平均 μ 、標準偏差 σ のようにギリシャ文字で表す。一方、統計量は、平均 \bar{X} （または m 、 M ）、標準偏差 s のようにラテン文字で表す。

ミックス法

[mixed method]

調査や実験などの量的研究とインタビューや観察などの質的研究を組み合わせる手法。両方から得られたデータの弱点を相互補完し総合的解釈を行うトライアンギュレーションデザイン、一方が他方の支援的・二次的役割を果たす埋め込みデザイン、量的データを深く解釈するために質的研究を用いる説明的デザイン、質的研究で課題を探索し量的研究で検証する探究的デザインといった組み合わせ方がある。

無作為抽出法

[random sampling]

ランダム・サンプリングと訳される。「確率抽出法」とも呼ばれる。統計調査における標本抽出（サンプリング）の方法の1つ。標本（サンプル）を特定の意図を持たずランダムに選択する方法をいう。無作為抽出法には「単純無作為抽出法」「層化抽出法」「系統抽出法（等間隔抽出法）」などがある。

面接法

[interview technique]

相談的面接と調査的面接があり、社会調査で面接法というときは後者のことを指す。調査テーマについて、面接者が調査対象者から会話を通して、データとなる科学的情報を収集する方法。調査対象者の持つ感情、意見、考え方、出来事などを、質的データ、量的データの形で収集し、データの種類に合った方法で分析を行う。

有意水準

[level of significance]

統計的仮説検定を行う場合に、帰無仮説を棄却するか否かを判定する基準。社会調査や心理学実験では5%あるいは1%がよく使用される。有意水準5%で検定を行うということは、同様の検定を行うと、100回に5回は誤っていることを表す。「有意水準 α で検定すると有意な差が認められた」ということと、「危険率 α のもとで有意な差があるといえる」は同じような意味である。

有意抽出法

[non-random sampling]

「非確率抽出法」とも呼ばれる。統計調査における標本抽出（サンプリング）の方法の1つ。母集団を代表すると思われる標本（サンプル）を調査者が作為的に選ぶ方法をいう。有意抽出法には「縁故法」「応募法」「割当法（クォータ・サンプリング）」などがある。

郵送調査法

統計調査で用いられる自計式調査の1つ。調査票の配布や回収を郵送によって行う方法をいう。対象者

が広範囲にわたる場合に有効であるが、一方で回収率の低下が考えられる。未回収の対象者に対して、何度か督促状を送付することが多い。

誘導的な質問

質問紙調査において、回答者に特定の傾向の答えを回答させるように誘導する質問をいう。たとえば、社会的に正しいことに同意を求められたり（社会的望ましさバイアス）、権威のある人の見解が示されたり（威光暗示効果）すると、回答者は質問に対して肯定的に回答する。

予備調査

[pretest]

「プリテスト」とも呼ばれる。社会福祉調査において、調査票を作成した後に行われる小規模な試験的調査をいう。調査項目や内容、回答形式などを再点検し、調査によって導き出される結果をより正確なものにしていく上で重要な役割を果たす。

ライフストーリー・インタビュー

[life story interview]

回答者が話した人生の経験を、固定された客観的事実としてではなく、主観的に意味づけられた物語として捉えるインタビュー手法。物語は、インタビュアーとの対話を通してダイナミックに再構成される。

ラポール

[rapport]

利用者と援助者との間に形成される信頼関係をいう。この信頼関係を基盤に専門的援助関係が確立される。

リッカート法

[Likert scaling]

ある概念を尺度化するために用いられる測定方法。その概念を構成すると考えられる項目を複数用意し、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」などの程度を測定する選択肢で回答を求める。さらに、各選択肢に得点を割り当て、それらの合計得点を計算して概念の尺度化を行う。

量的調査

[quantitative research]

統計調査と同義。

量的データ

[quantitative data]

間隔尺度または比例尺度によって得られたデータ。足したり、引いたり、平均を求めたりすることができる。質的データよりも分析の方法が多様である。量的データを質的データに変換することはできるが、その逆はできない。

ワーディング

[wording]

質問紙調査における質問文や回答選択肢の表現方法あるいは言葉づかい。質問・選択肢の内容に実質的な違いがなくてもワーディングによって回答が左右されることがある。ワーディングには、すべての回答者に質問・選択肢の意味が等しく適切に伝わるように配慮する。

社会調査の基礎

問題 84 次のうち、統計法における基幹統計調査として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉施設等調査
- 2 福祉行政報告例
- 3 介護サービス施設・事業所調査
- 4 労働安全衛生調査
- 5 国民生活基礎調査

問題 85 社会調査における倫理に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社会調査の対象者の抽出では、住民基本台帳から制約なく個人情報閲覧できる。
- 2 調査の協力は自由意志であるので、対象者への調査に関する説明は不要である。
- 3 社会調査では、対象者に調査協力の謝礼を渡すことが不可欠である。
- 4 調査前に対象者の協力同意書があっても、調査の途中又は調査後の対象者からのデータ削除要請に応じることが求められる。
- 5 仮説に反した調査結果が出た場合、調査結果の公表を差し控える必要がある。

問題 86 次の事例を読んで、S県が実施した標本調査の母集団として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

S県内の高校に在籍している全ての生徒のうち、日常的に家族の世話や介護等を担っている高校生が、どのくらい存在するかを調べるために、標本調査を実施した。

- 1 全国の高次に在籍する全生徒
- 2 全国の高次に在籍する全生徒のうち、日常的に家族の世話や介護等を担っている者
- 3 S県内の高次に在籍する全生徒
- 4 S県内の高次に在籍する全生徒のうち、日常的に家族の世話や介護等を担っている者
- 5 S県内の高次に在籍する全生徒のうち、標本となった者

問題 87 次のうち、質問への回答を他計式で記入する社会調査として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 郵送調査
- 2 留置調査
- 3 個別面接調査
- 4 集合調査
- 5 オペレーターによる電話調査

問題 88 尺度に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 比例尺度では、平均値を算出することができる。
- 2 順序尺度で測定した1と2の差と、3と4の差の等間隔性は担保されている。
- 3 名義尺度で測定した変数は、中央値を求めることができる。
- 4 間隔尺度では、測定値の間隔が数値として意味をもつことはない。
- 5 名義尺度、間隔尺度、順序尺度、比例尺度の順で、尺度としての水準が高い。

問題 89 調査手法としての面接法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 構造化面接では、対象者に語りたいことを自由に話してもらうことが重要である。
- 2 非構造化面接では、調査者は事前に10項目以上の質問項目と質問の順番を設定し、その順番どおりに質問していく必要がある。
- 3 半構造化面接では、インタビューのおおむね半分程度の時間を、質問内容や質問の順番などが詳細に決められた質問紙によって面接が進められる。
- 4 面接調査では、表情や身振りといった非言語表現も重視する。
- 5 グループ・インタビューの調査者は、対象者同士の会話を促さないようにする。

問題 90 社会調査における記録の方法とデータ収集法に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 質的調査で対象者を選定するときには、無作為抽出法を行うことが不可欠である。
- 2 アクションリサーチでは、量的調査でデータを収集することがある。
- 3 ドキュメント分析の対象となるデータには、手紙や日記などの私的文章も含まれる。
- 4 質的調査のデータとしては、画像や映像の使用を避ける方が望ましい。
- 5 フィールドノーツは、調査者の解釈を含めずに作成する必要がある。